

資本主義すら行はれて居ない、殆んど原始的なる自給自足の農業時代を脱しないのである。故に現在に於て一足飛に社會化など、叫んでも實際社會化すべき事實の存在は認められないのであつて、余はそれよりも先づ我が農業を企業化し商業化し之を經營して居る農家をして商工業者と同じく、生産物の販賣法に特に多大の重きを置き、生産者(即ち農家を市場に接近せしむる手段を爲さねばならないのである。生産者を市場に接近せしむる第一の要件は農村に貨物自動車を通ずる道路を普及せしむるより他に取るべき方策はなからうと信ずるのである。然らば農村問題の解決も亦此の道路問題の解決に待たねばならないことは明かである。(未完)

交通に對する無理解と交通教育の必要

法學博士 末弘 嚴太郎

社會の地方的竝に職業的分業關係、從つて社會的相互倚依の關係が緊密複雑になればなる程、社會諸分子の相互交通を保障すべき交通機關は日に益々其の重要さを増大する。

斯が其の重要さは未だ必ずしも一般人によつて充分に理解されてゐない。そうして其の無理解

が道路改良の最も大なる障害となつて居るのであつて、道路の改良に志す人々は一面道路構築の技術を進めることに力を致さねばならないこと勿論であるが、同時に此道路に關する理解を一般人の間に弘めることに全力を盡さねばならない。何故なれば、現に東京市の如き大都會に住んでゐる人々は鐵道汽船自動車其他あらゆる交通によつて食料品其他生活必需品を得て居る、それあるによつてのみ其日々の生活に事を缺かないで居るにも拘らず、平常其の供給が無事に行はれて居る間には、恰も健全な胃の持主が胃の存在に氣付かないと同様、彼等の生活に對する交通機關の重要性に氣付かずに居る例が甚だ多いからである。

是故に、私は常々去る大正十二年の大震災が東京市民に與へた教訓を思ひ起すことは交通に對する一般人士の理解を進めるについても極めて有益であると考へて居る。あの震災の際吾々東京市民は何故にかくの如く食料に窮し其他生活上の苦痛を嘗めねばならなかつたか。一言にして之を言へば交通機關の破壊が其の原因であつたのである。現在大都會に住む人々は平素決して食料品を蓄へて居るのではない。彼等の生活必需品は絶えず他より供給を受けて居るのである。従つて一度供給の途が絶えたが最後市民は忽にして明日の生活に苦しむこととなるのである。所が平素其の供給が無事に行はれて居る間は兎角其の供給關係の重要さについて一般人が充分の理解を持たない。それは丁度健全な胃の持主が胃の存在に氣付かないのと全く同じである。所が一朝大震災が帝都からあらゆる交通機關を奪ひ去つたとき、市民は初めて生活必需品の缺乏に苦しみ、従つ

て其の供給機關たる交通の重要さに氣付いたのである。此意味に於て私は常々かの大震災を以て交通教育の最も有力な教材であると考へて居る。

所が、あの震災によつて一時的に交通機關を奪はれた結果あれだけの慘苦を嘗めた東京市民も、平素彼等の惡道路によつて慢性的に多大の損害を受けてゐることを必ずしも充分に理解してゐない。大震災は急激に彼等から一切の交通機關を奪つた爲めに彼等に向つて極めて明瞭な印象を與へることが出來た。然るに、現在東京市民の持つて居る粗惡な道路が毎日々々市民に向つて少しづつ與へてゐる——而かも總計して見ると非常な額に上るべき——損害について殆んど何等の理解をもつてゐない。そうして其日々の目先の利害にのみ没頭して交通機關の徹底的改善を計ることを忘れ勝である。それは丁度吾々が齒痛に苦しむと忽ち齒醫者の所にかけてけるにも拘らず、平素齒の養生を怠つて慢性的に多大の損害を蒙つてゐるのと全く同じである。

此意味に於て、私は道路の改良に志す人々に、一面技術の進歩に志すと同時に、一般人士の間に道路に關する理解を弘めることに全力を盡されむことを希望してやまないのである。そうして其の理解が充分に弘まつたときに初めて道路改良の財源も潤澤になり、道路敷地の收用も容易となり、そして吾々の道路が歐米のそれに比して何等遜色なきものとなるに違ひないと考へて居る。